

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	加古川市立こども療育センター		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和6年11月1日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29 (回答者数)	29
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和6年11月1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子登園の形態であること	・不安を抱えて入園して来られる保護者に対して、こどもがどうしたら楽しいと思えるか、こどもの表情や反応を見て一緒に探り、支援に必要な知識や関わり方をその場で直接伝えることができる。また、こどもの理解を深めることで、この時期に大切な愛着が形成できると考える。 ・随時面談が可能のため、保護者の思いも汲み取りやすい。また、保護者の親交が深まり、情報交換、相談の場となっている。	・保護者会などで保護者支援としての時間を設け、学習会や保護者同士の交流の場をもう少し増やせたらと思う。 ・親子通園のため、保護者の仕事復帰の為通園ができない場合もある。センターにつながるタイミングがもう少し早くできるよう育児保健課や基幹相談センター等との情報共有を図っておく必要があると考える。
2	・多職種との連携が可能であること	・センター内に診療所が併設されている為、通所している利用児の担当療法士に支援について相談したり、保護者の同意のもと医療の職員と情報共有をしている。 - また、診療所と兼務の看護師が保育に参加する時があり、医クア児も保護者と安心して過ごすことができる。 ・相談支援専門員もセンター内にいるため、サービス担当者会議にも定期的に参加できている。	・ケース会議等で職員間の連携を深め、様々な視点での意見があることを知り、より良い支援につなげていく。 ・保育士自身も、担任をしているクラス以外のクラス保育を見学し、様々な支援を知り、自分のクラス保育に活かす。
3	・個別支援計画をより具体的に立てられること	・利用前のプレ保育を経験してもらうことや、保護者同意のもとで医療の情報を共有することで、細かくアセスメントができる。また、普段から保護者が保育に参加し、職員との共通理解ができているからこそ、本人主体の目標設定を考えられる。	・個々の支援内容を職員間で共有し、無理なくスモールステップで支援できるようにしていく。 ・引き続き、朝の打ち合わせを行い、プログラムが固定化しないように季節の遊びも取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・情報の周知や発信が弱い	・緊急の情報やお知らせは39メールを使って保護者に通知している。 ・センター内の児童発達支援の紹介や、案内についての情報はホームページ上でのタイムリーな通知ができていない。 ・個人情報にも配慮して発信しなければならないため、難しさもある。	・ホームページに掲載する内容を検討し、市民の方や利用者の方にわかりやすい工夫をする。 (児童発達支援の概要や、行事、保護者会の内容など) ・より伝わりやすい方法がないか、検討する。
2	・地域との交流やきょうだいへの支援	・センター近くの公立のこども園との交流保育を年に数回実施させてもらっている（肢体不自由児のみ）。地域の方との交流は慣れない環境が苦手な児も多く、どのように交流できるか模索中である。 ・きょうだい児については、夏季登園中に、限られた対象児にのみ実施しているが、低年齢児への直接支援は難しい。また、きょうだい支援についての専門知識の学びが不十分である。	・参観や交流保育など、今までの活動を継続していく。 ・周辺への散歩などを設定し、地域の方と挨拶をしたり少し話ができるような機会をもつ。 ・センターとして、きょうだい支援の方法や関わり方について知識を深め、どのように支援していけるか検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					令和7年2月7日	
加古川市立こども療育センター		利用児童数					令和6年11月1日	
							回収数 29	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29					引き続き、遊戯室・園庭など活動に応じ使用する場所を変えながら、工夫して安全に過ごせるスペース確保に努め、部屋の大きさに応じたクラス編成(人数調整)をしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28		1		・手厚い保育を受けさせていただいていました。 ・十分すぎるぐらいであります。	細やかな対応ができるよう、できるだけ各クラス3名の職員を配置するように努めるとともに、保育内容によってはクラス間でも調整を行い配置します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	29				・入口から保育室までストレスなく行けます。	引き続き、子どもの特性に応じた環境づくりや設備の整理に努めます。その中で、安全面については十分に留意し、子どもが触れると危ないものなどは、子どもの手が届かないところに置くことや、出した数を把握することで片付けの漏れを防止するよう努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	28	1			いつも清潔で、親子で心地よく過ごせています。	引き続き、清掃、点検、感染防止対策をし、心地よい空間づくりに努めます。また、エアコンや加湿器を活用しながら適度な室温や湿度を保てるよう配慮します。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	28			1	・専門性のある支援かは分かりませんが、理解して対応いただいていると思います。 ・どんなことができるか考えたらうで、何らかのねらいを持った保育・支援がなされていました。 ・保護者より理解しているように思います。	今後も、併設している診療所の医療スタッフとも連携・情報共有しながら、子どもの特性や発達に応じた目標を立て、活動プログラムの提供をしています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	2		1		今後も、当センターが定めた支援プログラムを基本として、子どもの特性に応じた個別支援計画の作成や活動プログラムの提供を行います。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29				・よく話を聞いてくれ、目標に困った時はアドバイスや例を示してもらっています。	引き続き、保護者のニーズをしっかりと聞き取り、子どもの姿や目標を意識し職員間で意見交換をしながら、個別支援計画を作成していきます。
	8	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27			2		引き続き、保護者と子どものニーズや背景等を的確に把握し、その子どもに応じた適切な支援内容を設定します。
	9	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）に沿った支援が行われていると思いますか。	28	1			・計画内容を皆さんが覚えていてくれて驚きます。	個別支援計画の目標達成に向け、継続した支援が実施できるよう、生活や遊びの中で取り組める計画を立て取り組んでいきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	2			・日々の手遊び等の歌などは、もう少しバリエーションがあっても良いのかなと思います。 ・こどもの好きなこと、季節感を味わえるもの、親子ともに楽しめるものなど、毎回楽しみにしていました。	今後も集団ならではの遊びや季節の遊び、静と動の活動など、職員間でアイディアを出し合いながら、子どもの発達にあった活動が提供できるように努めます。また、遊びのテーマが同じであっても、子どものレベルに合わせた遊び方を提案したり、発展させたりできるようなやり方を工夫していきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17	4	4	4	・全員ではないが、対象の子は機会があると認識しています。 ・一部の対象児に対して、交流保育という形で外部の園児とかかわれる機会が設けられていました。 ・一定の条件を満たしたこどもが対象なので、全てのこどもにはあてはまりません。	交流の方法については、機会の確保と対象児の検討を行っています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29				・一つ一つ丁寧に説明していただき、分かりやすかったです。	引き続き、運営規程、支援プログラム、利用者負担等の説明について、保護者に丁寧に分かりやすい説明をおこなうよう努めます。

保 護 者 へ の 説 明 等	13	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29				・項目一つ一つ確認し、納得できるよう理解を促していただきました。	引き続き、児童発達支援計画について、保護者に丁寧で分かりやすい説明をおこなうよう努めます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25		1	3	・母だけでなく、父に対してもこういう機会が増えてくれるとうれしいです（参観だけなので）。	引き続き、保護者とコミュニケーションを図り、併設する診療所の専門職員とも連携しながら家庭支援に取り組んでいきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	28	1			・全てを共通理解するのは難しいが、ある程度は出来ていると思う。 ・日頃からこどもの様子をよくみてくれていて、体調の変化に気づいてくれたり、できるようになったことも理解してくれています。 ・保育が終わると先生方が発達面など、「前よりできることが増えたね！」などお話してくれます。	引き続き、親子通園の利点を活かし、子どもの発達や状況、課題について共通理解の徹底に努めます。また、十分な時間を取ることが難しいときは、相談内容を記入した用紙で伝えることができるよう、相談用紙の投函箱も設置しています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29				・小さなことでもアドバイスしてくれたら、ずっと一緒に居ると気づけなかった変化にも気づいてもらえるので心強いです。 ・面談や少しの時間でも相談や悩み事などを聞いてもらい、アドバイスをいただいています。	引き続き、保護者からの相談に適宜対応し、アドバイスが出来るようチームで対応します。その後の経過も聞き取ることで継続的な支援を行えるよう努めます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29				・事業所の職員にはいつも寄り添ってもらっているとすごく感じます。小さいことにも気が付いてお話ししたりと支えていただきありがとうございます。 ・悩んでいることも一緒に考えてくれ、とても話やすく安心感がありました。	引き続き、保護者や子どもに寄り添うことを心がけ、成長を共に享受できる支援となるよう努めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	1	1		・保護者同士の交流でいろんなお話が聞けて毎回楽しみます。きょうだい向けのイベントがあり、事業所での生活が見れて喜んでいます。小学生以上の年齢も交流できるとうれしく思います。 ・保育所に通うきょうだいの交流の機会がもっとあればいいのになと感じることはあります。保育所で預かってもらえない日も年に何度かあるので、その時は一緒に通園できると助かります。 ・今でも十分保護者同士の交流の場が設けられていますが、もう少し交流の場があればうれしいです。 ・きょうだいは預け先がない人しか来られないのが残念。もう少しイベントがあっても良いと思う。	引き続き保護者会活動や保護者同士の交流促進を進めていくとともに、きょうだいの交流機会の確保に努めます。
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27		1	1	・いつでも相談できるよう、面談申し込みの箱の設置などもありました。 ・トイレの鍵やチェアシートをつけてほしいと要望したが、その後どうなったのか対応や説明がない。	引き続き利用者からの相談や申し入れに対する体制の整備や周知に努め、申し入れがあった場合は迅速かつ適切に対応していきます。また、相談や申し入れをする時間を取ることが難しいときは、内容を記入した用紙で伝えることができるよう、相談用紙の投函箱も設置しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	29				・保育が終わった後などに、先生方からいろんな情報を教えていただき、「次の保育で取り組んでみましょうか？」と提案してもらえました。 ・十分すぎるぐらい配慮してもらっていると思います。 ・こどもの意見をいかにくみとるか、どのようにすると表出しやすいかを常に考え、工夫していただけていました。 ・入院後や市役所手続き後など、その都度気にかけていただけるのは助かります。	引き続き、丁寧な情報伝達ができるよう、どうすれば児がわかるように伝えられるのか考え、いろいろな方法を試しながら、その時の最善の支援ができるよう努めます。また、保護者に対してわかりやすい説明を心掛けます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20	2	1	6	・SNSやHPはないですが、何度も連絡してくれていると思います。 ・ホームページは見ることがない（知らなかった）。あるのであれば便利で見たいので公開してほしい。	引き続き、活動内容や緊急時の対応について、理解を深めていただくために、情報発信をしています。ホームページについては掲載する内容を検討し、見やすくなるよう改訂します。また、発信方法について、緊急時や警報以外の情報も適宜39メールで伝えていくことも検討します。なお、子どもの欠席が長期にわたるような場合には、その間の行事予定や連絡事項をごまめにお伝えするようにします。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29			・十分すぎると思います。 ・写真撮影OKのときも必ず注意事項を説明されていました。 ・個人を特定するような情報は伏せて、必要な情報をくださる配慮がありました。	引き続き、個人情報の取り扱いについては、細心の注意を払い適切な取り扱いを徹底します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	1	2	・十分だと思います。 ・コロナが発生したときも、すみやかにメールにて周知されていました。 ・マニュアルがあるのかどうか知りません。	今後も緊急対応マニュアル等の内容について、随時見直しを行い、適切な対応について周知徹底を図っていきます。また、避難するときのポイントや注意事項などが、よりわかりやすく伝えられるような方法について検討します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29			・こちらの知識が増えるくらい訓練が行われていると思います。	引き続き、様々な非常災害を想定した訓練方法を検討すると共に、保護者の協力を得ながら定期的に必要訓練を実施します。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	1			今後も事故防止に向けた防止策と情報共有を職員間と保護者で行い、安心安全な環境づくりに努めます。また、虐待防止の観点から子ども達の人権を守る意識を高めていけるよう研修を実施します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29			・保護者が気にしていない小さなことについても説明して謝ってくれるので、先生たちが疲れないか心配する程です。 ・小さなケガもすぐに伝えてくださり、今後の対応についてもお声がけいただきました。	引き続き、事例発生時にはすみやかに保護者へ連絡するとともに、職員間で情報共有の徹底と発生防止等について協議し安心安全な環境づくりに努めます。また、大きなけがや事故につながらないヒヤッとしたことや小さな怪我についても職員間で情報共有を行っていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	29			・日々、のびのびと楽しく安心して通所でできます。 ・全く嫌がらず通所してくれています。 ・いつもセンターに登園するとうれしそうに先生方にも手をのばしたり、笑いかけたりしています。 ・本人も安心できる場所と感じてると顔をみればわかります。楽しい場所と分かっていますし、のびのび過ごせています。	引き続き、子どもが安心して通園できるような環境づくりに努めます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	28		1	・朝、家を出る時に「先生のところ行くかー？」と聞くと、うれしそうに返事をしてくれます。 ・保育士の皆さんが明るいので、よく笑う子に成長してくれたと思います。 ・毎回ニコニコして朝の機嫌が悪くても、センターに行くときとヒタッと上機嫌にかわっていたと思います。 ・毎回楽しみにしています。「行くんー？」と聞くと「はいー！」と答えて嬉しそうに車に乗っています。車内でも鼻歌をうたいルンルンです。	引き続き、子どもが楽しく通園できる場所となるよう、子どものニーズや発達にあわせた環境づくりや支援の提供に努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29			・事業所にお世話になり、子どもの事を一緒に考え、一緒に喜んでくださり本当に感謝しています。 ・子どもだけでなく、私の心配もしていただき心がホッとしています。 ・センターのことだけでなく、家庭のことにも耳を傾け保育に活かしてくださっています。 ・先生方は常に笑顔で、子どもにも母にも寄り添って下さり、いつも温かい場所だと思います。相談もしやすい雰囲気です、通って良かった！って思っています。 ・子どもの成長も家族の様に一緒に喜んでくださり嬉しいです。 ・子どもの事を一緒に考えてくれる人が居る環境がとてもありがたいです。子どもの成長を喜んでもらえて出来ないことへのアプローチと一緒に悩んでアドバイスをいただけて助かります。 ・とても満足です。	引き続き、子どもや保護者に寄り添いながら、一緒に子どもの成長を喜ぶことができるような支援の提供に努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		加古川市立こども療育センター			公表日		年 月 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11		・各クラスの広さに応じてクラス人数を編成している。 ・その日の遊び・活動内容によって遊戯室や廊下、戸外を使用したり、他クラスと部屋を交代したりしている。 ・廊下で遊ぶときは、子ども乗ってきたバギーは空いている部屋に止めている。 ・部屋により狭く感じる事もあるが、遊びを工夫したり、室内スペースを広く使えるよう室内を整理している。	・保護者も一緒にいることを考えると、出席人数や遊びの内容によっては狭く感じるときがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		・クラス担任の人数を調整している。子どもの出席人数に応じて人員配置の調整をしており、遊びの内容によっても臨機応変に配置している。 ・職員の人数、保育内容によって、他クラスから職員のヘルプをお願いしている。	・配置は適切であるが、経験のある職員と浅い職員の差は大きい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11		・肢体不自由児のクラスと共有のため構造化は難しいが、視覚支援や視界を遮断できるような衝立を準備している。 ・バリアフリー化されており、廊下は車いす等でもスムーズに移動出来る 広さになっている。 ・同じ部屋を2グループ（身体・発達グループ）が曜日を変えて使用しており、それぞれの特性に応じた環境を設定して利用している。 ・トイレの大きさや高さなど、バリアフリー化がされていると思う。 ・個々に合わせた机や椅子を準備し、高さ調整をしている。 ・子どもの特性に配慮した環境になれるように務めている。 ・スケジュールが分かりやすいように、ホワイトボードに絵カードや写真を掲示している。 ・保育室・トイレ・遊戯室等が区別されているため、子どもにとって分かりやすく環境整備されている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		・保育室の掃除や消毒はこまめにしている。 ・クッションフロアのため、寝たきりの重心児にはマットを敷くなどの環境の工夫をしている。 ・空調や空気清浄機を使用し、過ごしやすい環境を整えている。 ・大型連休では、窓やカーテン・加湿器等の大掃除を行っている。 ・常に換気や消毒を心がけて、アルコール・次亜塩素酸もすぐ使えるよう各クラスやトイレに設置している。 ・清潔を保つように心掛け、換気や冬季の床暖房など、室内の温度調節に留意し心地よく過ごせる環境を整えている。	・保育室の端にほこりや蜘蛛の巣が張りやすいが、なるべく拭き取るよう注意している。		

	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	・痼癇やパニックなどで退室をしたほうがよいと判断した時には、廊下に出てクールダウン。また、空いていたら遊戯室で発散できるようにしている。 ・肢体不自由児に対しても空いている部屋を用意している。 ・チューブの交換やガス抜き等、別室での対応が必要な場合は部屋を確保している。 ・遊戯室や戸外で少し体を動かせる時間を時によって対応する旨共通理解をしている。 ・全体の保育の中で個別の場所作りとして、必要に応じて衝立の使用や部屋のコーナーなどの空間を利用した環境作りを行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1 ・日誌にも個別支援目標が反映されていて実施しやすい。 ・日誌作成・保育後に反省や改善点の振り返りを行っている。 ・朝の打合せで職員間での共通理解ができるようにしている。 ・月2回(グループ1回)の保育会議や個別支援会議。各クラスで日々の保育内容や行事・子どもの関わりなどについて確認し、全体の保育で共有している。保育後には振り返りと検討・見直しを行っており、その内容を保育会議で共有している。	・業務内容として正規職員の負担が大きい。その分非正規職員が受けられる業務をまかせられるように技術やパソコン業務の習得もできるようにしていく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	・評価を見て改善できるところはどこか職員間で検討し、より良い支援を探っている。 ・11月にアンケートを実施した。 ・評価表に上がった保護者の意向は、職員間で共有し改善できるように話合っている。 ・保護者からの意見等があればすぐに情報共有されている。	・意見を反映している部分があれば、難しい内容は(保育だけでは改善できない内容)改善できていないこともある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	・個々に面談をし、意見を聞くように心がけている。 ・保育士会議、朝の全体ミーティング等で話合機会が設けられており、またその他の会議等でも職員の意見の交換の場は持っている。	・業務の改善ができていない部分もあると思う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	9	・第三者による外部評価は行われていない。 ・保育のどんなところに特化した講師を呼ぶのか、定まっていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	・各自の経験に応じて必要な研修に参加できるようにしている。 ・内部研修として受講した研修内容や知識の伝達を行う職員勉強会や、他部門と連携してのケース検討会議などを行っている。 ・外部研修も自ら進んで受講出来る体制になっている。 ・近肢連や感覚統合研修など、様々な研修への参加機会がある。 ・保育士勉強会を定期的に行っている。 ・ケース検討会議に参加し、子どもへの関わり方を話し合い、日々の保育に活かせるよう努めている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	4 ・ガイドラインに応じて5領域を含めたものを作成。	・R7年4月～に向けて現在作成中。R7年2月ごろに公表できるようにしている。 ・作成途中である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成しているか。	11	・アセスメント、モニタリングの中で子どもと保護者のニーズを把握し、個々の発達に応じて無理のない達成できる支援計画が立てられるよう心がけている。 ・こどもと保護者のニーズに応え、こどもの姿やそれに伴う課題を職員間で十分に話し合い個別支援計画書を作成している。 ・計画を作成するにあたって、保護者と話し合いを行っている。現在の子どもの様子、半年でどこまでできるか、その目標に対してどんな支援が必要か具体的に作成している。	

13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	・目標を立てる際、どのような取り組み・支援を行うと子どもが楽しくできるかに重点を置き、作成している。 ・支援計画会議に児発管、担任、相談員、看護師が参加して情報共有等を行っている。また、会議の内容を決裁し、会議に参加していない職員も確認できるようにしている。 ・各クラスの主担任を中心として、支援に関わる職員がこどもの現状の姿や成長に応じて支援計画を考えている。 ・一人ひとりの子どもの特性に応じ、個別や集団活動を組み合わせ、適切な計画を作成している。	
14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	・支援計画の会議の中で、支援の方向性・内容を共有している。 ・目標達成のために毎月スモールステップで達成できる目標を立て、日々の振り返りで確認している。 ・支援計画を共有し、個別の目標を保育や生活の中で、日々取り組む目標として設定し、その都度、振り返りや反省を行っている。 ・支援計画を元に、保育に取り入れて遊びを考えている。 ・担任以外も確認ができる。 ・遊びや生活の中で子ども達が目標を達成できるように環境設定や関わり方などを工夫して行っている。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	・子どもの発達検査の結果を保護者と共有したり、面談や観察、実際に関わることでわかることを含めてアセスメントしている。 ・会議でフォーマルなアセスメントを使用し、職員間で共有している。それを元にした行動観察、日々の保育日誌の記入、振り返り、話し合い等で行動の確認をしている。 ・その時の子どもに何の支援が必要か考えて目標設定している。支援内容を具体的に記すことで誰もが同じ支援ができるようにしている。 ・必要に応じて移行支援や地域支援の項目も含み、スムーズに移行できるようにしたり、連携したりしている。 ・総合的な方針を決め、長期、短期の支援目標、具体的な支援内容、留意点、地域支援の項目等を話し合い設定している。 ・並行通園先と連携を図り、支援をしている。必要に応じて、園に訪問し連携を図っている。また、その様子を保護者にもフィードバックし、今後の生活に活かせるようにしている。 ・児、保護者の思いを反映しながら支援目標・支援内容を立てている。	
16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	・必要に応じて移行支援や地域支援の項目も含み、スムーズに移行できるようにしたり、連携したりしている。 ・総合的な方針を決め、長期、短期の支援目標、具体的な支援内容、留意点、地域支援の項目等を話し合い設定している。 ・並行通園先と連携を図り、支援をしている。必要に応じて、園に訪問し連携を図っている。また、その様子を保護者にもフィードバックし、今後の生活に活かせるようにしている。 ・児、保護者の思いを反映しながら支援目標・支援内容を立てている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	・保育内容は職員間で何をしていくか話し合っで決めている。 ・行事では主担当中心に会議や打合せを設けている。 ・主担任が集まり、1週間分の保育内容を考えたりしている。その内容を各クラスで細分化して内容を考え、保育を行っている。	

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	・同じようなプログラムの場合、活動内容を工夫したり発展させたりすることで、別のねらいをもって支援するようにしている。 ・各クラスごと、こどもの姿を捉えて立案し、保育後に支援の振り返りを行い、支援に繋がる行事、活動を工夫している。 ・現在のセンターに合ったプログラム、柔軟に対応できるプログラムになれるように工夫している。 ・固定化しないように、題材は同じ遊びであっても、一人一人に合った関わりや準備をしている。 ・児の成長や現状によりパターンや（支援の）設定を工夫している。 ・季節の遊び、日々の出席児や静と動の遊びの組み合わせにも気を付けて考えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	11	・基本的に集団活動だが、その中で個のレベルに合わせた支援を心がけ、保護者にも説明している。 ・「りぼん」での個別保育は、支援計画の内容を取り入れるようにしている。 ・目標をピンポイントにするのではなく、登園した時にできるような（頻度が高めな）支援内容を意識して作成し、支援が行えるようにしている。 ・個別保育をする中で、集団活動でした事でも個別に関わることで、少し苦手な事もモールのステップで「できた」が見つけられるように、また、集団活動にも取り入れやすくしている。 ・集団保育と個別保育を実施し、全体での姿、個人の発達に合った保育を提供している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	・各クラスの担任がその日の保育内容について共有・確認するようにしている。 ・朝の打ち合わせで他クラスの保育内容、支援を聞くことで支援の知識を得られるようにしている。 ・連携できるようにチームで話し合う機会をつくっている。 ・支援や工夫が足りないところを補足して伝えている。	・伝達不足だなと感じるところがあるため、改善していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	・毎日、保育後に個々の記録を記入している。振り返りの中でどう支援していくか確認したり、できたことを共有している。 ・児発管としてアドバイスできる所は伝えている。 ・記録を記入する際に子どもの様子や保育内容の反省、保護者からの情報等をクラス担任で共有している。また、必要に応じて他クラスの職員にも共有している。 ・支援終了後に記録の記入をするとともに、その日の支援の振り返り、気付いたことの話合いの時間を持っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	・記録を基にケース検討の資料として見てみたり、より良い支援ができるように話し合いをするようにしている。 ・保育終了後の日誌を記入する時に話をしながら、どのように支援していくか、改善点や良かった点、児の成長ポイント、次に支援したいことを話し合うようにしている。 ・その日にあった児の言動や前後・背景の様子を聞いた職員の話をもとに職員間で考えを出し合い、工夫や改善につなげられるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	・最長6か月の中でモニタリングを実施している。子どもの姿や保護者の思いを踏まえて見直すようにしている。 （支援計画に沿って支援できているのか。目標がどの程度達成しているのか確認している。） ・次の支援計画を立て直し、決まった計画をお互いに理解と共有をしている。	

関係機関や保護者との連携	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。				
	25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。				
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		・児発管に加えてクラス担任が出席するようにしており、普段の子どもの様子を各機関で共有するようにしている。 ・出席できない場合も、資料として子どもの様子を記したものを渡している。 ・会議では担任等も参加しているため、日中活動等の様子も細かく話し合うことができています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11		・センターに併設された診療所とは保護者の同意を得た上で情報共有したり、並行通園している児については、園訪問をすることで連携を図るようにしている。 ・直接連携を取ることはないが、保護者からかかりつけの病院での情報を聞き、保育に活かせる部分は取り入れるようにしている。 ・児の関係機関からの資料を共有させていただく場合もある。 ・センターに併設している診療所にドクターと看護師が常駐しているため常に対応が可能である。看護師が児童発達支援の保育に参加し、情報共有を行っている。	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			・施設が児童発達支援センターのため、専門職に子どもについての情報を共有したり、症例検討で支援方法を検討する機会を設けている。	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	2	・肢体不自由児クラスの3歳児以上は、交流保育として、年間3回、地域の認定こども園のこども達と交流する機会を設けている。 ・並行通園の児は地域の園へ通いながらセンターを利用しているため、一緒に活動ができている。	・交流保育は今年、年3回に増えたが、散歩中に、隣接している小学校や産業センター等を使用できたらしたい。 ・園との交流を求めている児も増えているように感じる。 ・交流保育を行っているが、回数も少なく年齢にも制限があるため、回数がもう少し多くあればいいと感じる。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		・子どもの現状を保育の中で保護者と確認し、できたら次はこんな風にしていきたいと思いますか？と提案したり、訓練等できていることを保育に活かせるようにしている。 ・親子登園であるため、日々の状況は必ずその日に伝えることが出来ている。 ・自宅での様子を聞き、センターでも取り組めることがあれば保育の中や休憩時に取り入れている。 ・今までの姿と変化したところ等を振り返ることもある。 ・特に就園に向けて頑張れそうな目標を保護者と話し合うことで、共通理解をもつように努めている。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	2	・保護者会を通じて制度や支援学校、発達検査の話聞く機会を設けている。また、勉強会やロールプレイを通じて知識や経験ができるようにしている。 ・夏季登園中はきょうだい児も保育に参加できるようにしている。 ・保護者も参加できる研修やイベントがあれば掲示板に掲示している。また、保護者会で心理士の講話や保護者同士で情報共有を行っている。	
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		・地域に通わせたい保護者と面談で、どんな支援が必要になってくるのか確認している。 ・並行通園開始・卒園時には園に対して児の支援内容を「申し送り書」として作成し、情報提供できるようにしている。 ・必要に応じて園と連絡を取り合い、その都度変化する子どもの様子や保護者からの情報を伝えている。	

33	【 児発事業所・児発センターのみ 】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	1	・昨年度より、学校に対しても「申し送り書」として作成し、情報提供できるようにしている。	・就学先に児の様子を見に来てもらえると思いがちなが、現在はできていない。 ・就学時に関わったことがない。
34	【 児発センターのみ 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6	5	・定期的な取り組みは行っていないが、サービス担当者会議等の中で、こどもの支援についての情報交換をすることで統一した支援ができるように心がけている。 ・サービス担当者会議で事業所・センターでの様子を情報共有し、各場所に取り入れられることは取り入れるようにしている。 ・見学の機会等を設け、連携を図っている。	
35	【 児発センターのみ 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	5	・併設している診療所から子どもについての助言を受けることはあるが、外部からはなし。 ・研修については、職員のレベルに応じたものや興味のある研修に参加できるようにしている。 ・センター内の訓練士、ドクターが保育見学や診察の様子から情報共有と連携を図っている。	・現在の保育においてアドバイスを適宜もらえる機会があればうれしい。
36	【 児発センターのみ 】(自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	9	・センター内の地域連携担当や相談支援専門員が参加しており、児発管の参加はなし。 ・参加者からの伝達という形で情報を受けている。	
37	【 放デイのみ 】学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。				
38	【 放デイのみ 】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。				
39	【 放デイのみ 】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				
40	【 放デイのみ 】(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。				
41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	2	・センター内の児童発達支援を利用することになった際、個別支援計画の説明や事務説明の中で伝えることができている。 ・保護者一人一人に話す時間を設けて、丁寧な説明を心掛けている。	
42	児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	1	・作成する前に子どもの姿の確認、保護者の思いを聞くようにしている。その中で、センターとして支援できることを提案し、計画に入れるようにしている。 ・作成前にモニタリングを行い、こどもや保護者の意思の確認を行い、その意思を尊重し、個別支援計画を作成している。作成した計画を説明、共有し、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けている。 ・半年に1回振り返り、次の目標を保護者と話をしながら進めている。	
43	「児童発達支援計画(放課後等デイサービス計画)」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	2	・支援期間に入る前に必ず保護者に説明する場を設けて支援計画内容についての同意を得ている。 ・半年に1回、支援計画の説明を行っている。変更点があればその場で聞き取りを行い、変更するようにしている。	
44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	1	・親子通園のため、保護者の家庭での悩みやしんどさがありそうな時は、話を聞く場を設けるようにしている。 ・わかる範囲で助言や提言をしたり、他職種の職員に相談したりすることで解決できるよう心がけている。 ・相談や悩み等の申し入れがあれば、担任が必要に応じて面談を設定したり、助言を行っている。 ・日々の保育外の時間に相談を聞いたり、こちらからも聞いたりしている。相談BOXを置き個別で聞けるようにもしている。	・保護者の子育ての悩みに傾聴することは心がけているが、助言まではなかなか難しく、はっきりアドバイスまでは至っていない。

保 護 者 へ の 説 明 等	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	・保護者会を定期的に開催しており、ゲーム要素も取り入れつつ他クラスの親同士も関わられるようにしている。 ・「りぼん」の夏季登園では年上のきょうだい児も保育に参加したり、きょうだい児のみで遊ぶ時間を設けている。 ・親子登園であるため、日々の保育の中で交流する機会は十分に持てている。保護者が参加する保育を設けたりしている。 ・保護者会の時は子どもと保護者を分離し、落ちついて話ができる・聞くことができるようにしている。	・きょうだいとの関わりで悩んでいる保護者もいらっしゃるため、そのような内容も少しあればよいと感じるが、一人っ子の子どももいるのだろうか。
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	・保護者から疑問や苦情があった際、上司へ報告すると共に、解決に向けて対策を考える場をもつ（会議等）。 ・保護者へフィードバックし、必要に応じて他の保護者にも伝える、 ・苦情受付窓口として、重要事項説明書に明示し、口頭での説明を行っている。 ・保育や休憩時等に保護者からの相談等を聞くようにしている。場合によっては、別室や保育後等落ち着いた相談等ができるようにしている。	
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	・毎月センター便りを配付して行事のことやお知らせを伝えるようにしている。 ・緊急時の連絡として、39メールを利用。入園前に登録をお願いしている。 ・R7.4～HPが新たに公開できるようにしている。	
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	・入園前に個人情報の取り扱いについて説明したうえで同意を得ている。保護者の同意なしで情報の提供はしていない。 ・書類、P C上の情報についても保護者から知り得た情報を職員からの漏えいがないように心がけている。 ・施錠される場所に個人情報に関する書類などを保存している。また、破棄する際は指定の場所に置くようにして十分に注意している。 ・個人情報の取扱いには十分に注意して、保管管理している。（使用する際には使用日時、使用者名の記入） ・個人情報を必ず持ち帰らないようにしている。	
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	・どのように伝えたと児がわかりやすいのか、また、どのように表出して伝えようとしているのか、保護者とも確かめながらしている。 ・ボードに書いて、視覚的にわかるようにしている。 ・指握りやカード提示等を用いて、子ども一人ひとりが意思表示しやすい方法を取り入れている。 ・その時の子どもの体調や保護者と共有しながら、子どもの思いをくみ取るようにしている。 ・保育や生活の中で、こどもとの関わりを通して、個人の特性を理解し、保護者と共有している。	
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	8	・今年度、地域の施設を借りて音楽イベントを開催したが、案内のポスターを掲示してもらい、参加できることを周知した。
51	【放デイのみ】家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。				

非常時等の対応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		・警報、災害、不審者への対応についてマニュアルを策定しし、保護者に提示し配布している。 ・毎月避難訓練を実施し、実際に避難していただくことで保護者にも周知してもらっている。避難訓練は事前に知らせる時と予告なしでする時があり、マニュアルをベースに行っている。終わってからも見直しを行い、次に活かしている。 ・感染症対策は定期的に確認・情報共有している。	
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1	・BCPの作成はできている。 ・総合防災訓練では、消防署職員監修のもと、災害を想定した訓練を実施している。	・実際に起こった時に緊急連絡先を持ち出せる体制を整えておくことが大切だと感じる。 ・地域を巻き込んだ避難の練習はできていない。 ・各クラスで、防災グッズを準備する必要があるのではないか。
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11		・入園時の支援会議時に、アセスメントの中で配慮すべきことがあれば聞き取り、周知している。 ・服薬は基本保護者対応だが、どのような薬がある程度把握している。 ・必要に応じて書類を提出してもらったり、センターで服薬が必要なこと等は事前に伝えてもらっている。 ・必要時にはセンターの医師や看護師からの説明や対処法を会議等で確認している。 ・クラスの子どもは特に状況を把握している。	
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		・アレルギー児については給食の職員（管理栄養士）と共有し、センターの医師による指示書も提出してもらっている。（1回/年） ・毎月、アレルギー会議を行い、各メニューの確認をしている。 ・アレルギー児の給食は、除去や別メニューによる対応を行っている。 ・給食前には職員間で確認を行い、配膳時にも保護者に再確認しながら二重チェックを行い、事故防止に努めている。	
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		・設備の安全点検を行っている。保護者と一緒に登園するため、駐車場内での約束も伝えている。 ・ヒヤリハットがあれば都度、報告、検証、伝達をし、記録をファイリングしている。 ・定期的に避難訓練を行っている。 ・毎月、チェック表をもとに安全確認を行っている。 ・歩き回る児に対しては、特に、こけた時に角でケガにつながらないか安全に配慮している。	
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		・親子通園の施設のため、安全確保についてはすぐにできると思われる。 ・救急対応、AEDについても保護者会を通じて保護者に体験してもらう機会を設けている。 ・避難訓練時には何が必要か保護者と情報共有したり、子どものそばから離れる際には声を掛け合う等を意識している。	
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		・ヒヤリハット事案、事故（ケガ）があった場合は、上司に報告し、保育士間でも共有している。そのうえで防止策の検討会を実施し、それを保護者にも説明するようにしている。 ・小さなヒヤリハットも部内で共有し、書面で残し、再発防止を心がけている。	
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		・事業所として虐待防止についての研修を受講する機会を設け、職員へ伝達研修をしている。 ・1回/年は受けられるようにしている。	

	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	・体幹保持等でベルトをする場合、身体拘束にあたるものとして事前に会議をしたうえで妥当性の検討をしている。 ・実施前に保護者へ十分説明し、同意書にサインをいただいている。 ・個別支援計画書にも記載している。	
--	----	--	----	--	--